

感動の場

『雪』
1972年 小川原 脩 画

小川原脩がつづった一文に、「私が馬にとりつかれたのも、貴族のように軽快に洗練されたサラブレッドではなく、重たくて太く、縮れたたてがみとしっぽを持ち、4本の足首の後ろの球節といわれるところに、豊かな毛を生やしたペルシュロン種の堂々たる重量感であった」というものがあります。

この作品には、まさにそのような、武骨な馬と、犬が2匹登場します。彼らは深く積もった雪に足を取られ、身動きがとれません。この先、この動物たちはどうなるのでしょうか。行く先の見えない不安が漂うのは、《学生の反乱》と呼ばれた1960年代後半から続く混迷の社会情勢、また小川原自身の迷いが投影されているからかもしれません。

しかし、画面に目を向けるとそこは、薄陽が差し、地吹雪が舞い上がる雪原。淡い青の重なりが生み出す、厳しくも美しい倶知安の冬の清冽な印象と、色彩の際立った美しさに圧倒される作品でもあるのです。



文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

馬橇—開拓期の林業を支えた道具—

12月12日(日)、馬を使った伝統的な木材搬出方法である馬搬を体感できるイベント「はたらく馬が百年の森にやってくる」が行われました。今回は馬搬に関連する道具・馬橇が、かつて倶知安でどのように活躍したのかを紹介します。

倶知安開拓当初、伐採した木には燃料以外の使い道がありませんでした。しかし、明治26年(1893年)に倶知安初の工場・マッチ軸木工場が建ち、明治29年(1896年)に鉄道敷設が計画されると、建材や鉄道の枕木としての需要が高まり、林業が盛んになります。伐木や造材を積雪期に行う北海道では、伐採木の運搬に馬橇が欠かせませんでした。倶知安では明治26年には馬橇が販売されはじめ、明治40年(1907年)ころには馬橇を作る職人も現れました。明治43年(1910年)当時の倶知安の開拓状況について書かれた報告書では、「農家は冬閑の期を利用し、木材の伐採及搬出に従事するもの多く、枕木、丸太及角材、木炭等の産出尠からず。」とあり、冬場の羊蹄山麓地域の農家にとって、農耕馬と馬橇を利用した木の伐採や運搬が、農閑期の重要な副業になっていたことが伺えます。

馬橇は、乗用車の登場で昭和30年(1955年)ころから急速に衰退します。ただし豪雪地帯の倶知安ではしばらく除雪がままならず馬橇に頼ることが多かったため、他地域より比較的長い期間、冬の交通機関として使われました。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



馬橇の一種・バチ橇での木材運搬

ふるさと探訪

465回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第63回「麓彩会展」

会 期：開催中～1月16日(日)

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

常に新たな芸術と社会のさまざまな潮流を感じ取りつつも、〈個〉としての自らの創作姿勢を貫いた画家・小川原脩の、70年におよぶ画業をたどる展覧会です。

会 期：1月22日(土)～5月15日(日)

■第2展示室

小川原脩・谷口一芳 二人展「仲間たちへのオマージュ」

谷口一芳(1919-2013)は鼻を題材に深奥幽玄の世界を追求した画家です。麓彩会展にも第9回展(1967)より参加し、この倶知安の地で小川原脩との交流を深めました。それぞれに動物たちへ想いを託した二人の、力強い作品の共演をご覧ください。

会 期：開催中～2月13日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

「フルート四重奏の愉しみ」

日時：1月23日(日)14時～15時 会場：当館ロビー（無料）

出演：ヒカイ・クアルテット

按田 佳央理さん(フルート)・林 ひかるさん(ヴァイオリン)・今井 佑佳さん(ヴィオラ)・山田 慶一さん(チェロ)

定員：50名(予約制) 予約受付：1月6日(木)9時から電話申込

ヒカイ(HIKAY)はセブ語で「ごちそう」や「料理する」という意味。音楽のごちそうを提供したい、という想いからグループ名が誕生しました。札幌を中心に活躍する皆さんの美しいクラシックメロディーを心行くまでお楽しみください。

■ギャラリー・トーク

「小川原脩と遙かなるイマージュ」

日時：1月22日(土)14時～14時30分 会場：第1展示室（無料）

お話：沼田 絵美(学芸員)

■土曜サロン

世界のグレートアーティスト(19)「シャルダン 誠実な観察者」

日時：1月8日(土)14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤(館長)

絵画で楽しむパリの情景(6)「都会の観察者 マネ」

日時：1月15日(土)14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤(館長)

京都逍遥(7)「祈りの風景～洛東2～」

日時：1月29日(土)14時～15時20分 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤(館長)

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑯・⑰」

日時：⑯1月14日(金) ⑰1月28日(金) 各18時～19時

会場：映像ルーム（無料） お話：柴 勤(館長) 定員：5名程度(要予約)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※()内は10名以上の団体料金
1月の休館日 毎週火曜日、
1日～5日(年始休館)
美術館：17～21日(展示替
えのため)

隠れ家的ギャラリー(札幌編)

またまた素敵なギャラリーに出会いました。札幌は円山、アメリカ領事館のお隣り、一見普通の民家で1階がおしゃれなカフェ、そして2階がこじんまりとしたギャラリー。

この「MaShu 神宮の杜」を訪ねるきっかけは、当館でも展覧会を開催した絵本作家「すずきもも」さんの原画展でした。

靴を脱いでギャラリーへ入ると、そこは普通の和室をリフォームした六畳二間といった風情。奥の部屋には畳まであり、何やら懐かしい気持ちが出てきます。

円山公園の散歩帰りには、ギャラリーをのぞいて、おいしいカフェとスイーツを、そんな気持ちにさせてくれる心地よい一角です。

館長 柴 勤